

南ア月報

(2013年10月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

【内政】

●7日、マレマ元ANC青年同盟総裁が立ち上げた「経済的解放の闘士(EFF)」が独立選挙委員会に政党登録を終え、13日にはマリカナで選挙ラリーを開始した。

【外政】

●14-15日、オランド仏大統領が南アを訪問し、ズマ大統領らと会談を行った。同訪問では、鉄道車両契約の署名を始めとする経済面での協力に加え、中央アフリカ情勢等について協議が行われた。

●17日-18日、トゥスク・ポーランド首相が南アを訪問し、モランテ副大統領らと両国の経済協力の強化等について議論を行った。

【経済】

●南アとロシアは原子力分野における協力に関する協定に署名した。この協定により、ロシア国有会社ロスアトムに南アにおける新規原発建設の入札獲得が有利になる可能性がある。

●デビス貿易産業大臣より BBBEE 法に関連し、BEE コードを規定する改正版 Code of Good Practice が1年後に施行されるとの発表があった。

●南アは南アにおけるドイツのビジネス関係者が反対する中、ドイツとの二国間投資協定を破棄した。

1. 内政

●7日、マレマ元ANC青年同盟総裁が立ち上げた「経済的解放の闘士(EFF: Economic Freedom Fighters)」が、独立選挙委員会に政党登録を終えた。マレマEFF代表は、独立選挙委員会から発行された政党登録完了の証書を手し「南アに急進的な変革をもたらす巨人が誕生した」と述べた。

●13日、マレマEFF代表は、昨年8月に警察による鉱山発砲死傷事件の現場となったマリカナで、選挙ラリーの立ち上げイベントを開催、マレマ代表は、何千人もの支持者を前に、「EFFは北西州から選挙ラリーを開始した、翌年の総選挙では、州議会議員選挙で北西州の奪取を目指す」との意気込みを述べた。ラリーには、ホロミサ統一民主運動(UDM)党首が出席し、EFF支持者に対してスピーチを行った。

2. 外交

●オランド仏大統領の南ア訪問

14-15日、オランド・フランス大統領が南アを国賓として訪問し、ズマ大統領らと会談を行った。同大統領の訪問では、仏アルストム社と南ア PRASA 社との間の510億ランド規模の600編成の鉄道車両契約の署名、エスコム社への太陽光、風力発電所の建設にかかる13.5億ランドの貸し付け合意等の経済面での協力に加え、中央アフリカ情勢についての協議が行われ、両首脳は、中央アフリカにおける更なる紛争と宗教戦争回避のために、緊急の措置が必要であるとの認識で一致した。14日に開催された南ア・仏ビジネスフォーラムにおいて、オランド大統領は、南ア

はG20の一員として「世界経済を形づくる」ことに寄与しており、「私は南アをアフリカにおける主要プレイヤーとしてだけでなく、アフリカを越えた(主要プレイヤー)であると考えている」と述べた。また、オランダ大統領は、EU内では中所得国家に対する援助を疑問視する声も高まっているが、南アに対する援助は「依然として適切なものである」と述べた。

●トウスク・ポーランド首相の南ア訪問

17日－18日、トウスク・ポーランド首相が南アを訪問し、ズマ大統領を表敬し、モランテ副大統領らと会談を行った。トウスク首相の訪問には、約40社のポーランド企業が同行し、17日に開催された、南ア・ポーランド・ビジネスフォーラムでは、両国の経済関係の強化にむけた取組等が話し合われた。

●モランテ副大統領の中国訪問

28日－29日、モランテ副大統領は第5回南ア・中国二国間委員会に出席するため、中国の北京を訪問した。外交、経済貿易、科学技術、教育、エネルギー・鉱物の各委員会より構成される同委員会では、二国間の関係強化に向けた様々な議論が行われた。

3. 経済

<経済指標>

●失業

南ア統計局によると、南アの失業率は第2四半期の25.6%から、第3四半期に24.7%に減少した。2013年7月から9月の3ヶ月間で、失業者数は11万4千人程度減少し、雇用者数は30万8千人増加した。Investic グループのエコノミストは、第3四半期の失業率の穏やかな改善は主に公務員数の増加によるものであり、完全雇用を目指すに当たっては教育及び雇用創出における構造的な問題が障壁となっているとの分析を示した。

●南ア経済見通し

ゴードン財務大臣は2013年度中間財政演説において、2013年の南アの経済成長見通しは2.1%であり、2016年までには3.5%に上昇することが見込まれる旨を発表した。2013年の消費者物価指数は平均5.9%となる見込みである。2013年の上半期の貿易赤字は対GDP比2.6%となった。税収は、2013年度、8940億ランドへと30ランド減少することが予想される。財政赤字は現在の4.2%から2016年度には3%へと改善される見通しである。

<出来事>

●IMFによる対南ア4条協議の発表

IMFは南アフリカに対する4条協議に関する報告書を発表した。近年南アは雇用や成長を抑制する構造的な問題に直面しており、南ア経済及び通貨ランドは他の新興国経済のパフォーマンスに比べ劣っており、南アの失業率は依然として25%と高く、不平等などの社会問題が深刻である。IMFは、南アにおける雇用創出と成長加速のためには、早急に構造改革及び政策実施に向けた行動が必要であると指摘し、中期的歳出上限を定めることにコミットするとの南ア政府の方針及び南ア政府による長期的な財政政策への取り組みを支持するとの考えを示した。

●ロシアとの原子力協力協定

南アとロシアは原子力分野における協力に関する協定に署名した。この協定により、ロシア国有会社ロスアトムによる南アにおける新規原発建設の入札獲得が有利になる可能性がある。新たな原子力分野における協力協定は、マシャバネ国際関係・協力大臣のロシア訪問及び過去3回にわたるズマ大統領とプーチン大統領との間の首脳会談のフォローアップとして行われた。今回

の協定は、2004年に両国間で署名された協定を改訂したものである。南ア政府の総合資源計画2010では、9600MWの電力供給を確保するために、2030年までに3つの原発を建設するとの計画が示されている。

●労働ストによる自動車生産への影響

自動車メーカー大手BMW南アは、デビス貿易産業大臣と面談し、労働ストなどの労使関係における南アの不安定さは、当初計画されていたBMW新型車の南アにおける製造予定の撤回をもたらしたと述べた。労働ストなどにより自動車製造が連続8週間停止し、3(スリー)シリーズの13,000台の生産が不可能となり、BMWの2013年の年間自動車製造において15.8%のロスが生じた。

●BBBEE 新コードの発表

デビス貿易産業大臣より BBBEE 法に関連し、BEE コードを規定する改正版 Code of Good Practice が1年後に施行されるとの発表があった。新コードは全ての公的機関、民間企業に対し適用される。中小企業に対しては一部免除規定がある。旧コードの7要素に代わり、新コードはオーナーシップ、マネジメント、技能開発、企業開発及びサプライヤー開発、社会経済開発の5要素から成る。今後1年間は、新しく改正されたコードもしくは2007年2月版の一般コードのいずれかを選択することができ、1年後より、完全に新コードが適用される。

●南ア国債の格付け

南ア中央銀行から発行された Financial Stability Review において、同中央銀行は、経済の停滞及び繰り返される労働市場の緊張が、南アの国債格付けの見通しを脅かしていると警告を発した。本年1月、国債格付機関 Fitch は南アの外貨発行体デフォルト格付を BBB+ から BBB へ格下げし、見通しを安定的とした。今月 Fitch は南アが経済成長を加速化させ、長期安定的に支出を削減する政策を実施しない場合、南アの国債格付けが更に格下げされる可能性を指摘した。

●ドイツとの二国間投資協定の破棄

南アは南アにおけるドイツのビジネス関係者が反対する中、最も重要な貿易相手国の一つである同国との二国間投資協定を破棄した。同協定の破棄は、欧州の貿易関係者の失望を招いている。こうした動きは、個々の二国間投資協定を終了させ、自国の投資政策の枠組みを改変する方針の一環として行われたものである。デビス貿易産業大臣は、一年以上前に個々の投資協定を国内の一般法に取って代えることを言及していた。同一般法には、二国間投資協定の「雛形」が盛り込まれる見通し。同雛形は、収用が行われた場合の企業が受ける補償の権利を狭めたり、国際仲裁手続きの請求権を制限する恐れがあり、懸念を惹起している。ドイツはベルギー、ルクセンブルグ、スペインに次いで四番目に投資協定を破棄された国である。

4. 広報・文化

●第20回日本映画祭武

本映画祭は1994年の初開催以来、毎年度開催されており、本年度で20回目を数える。本年度は10月5日及び6日にプレトリア、12日及び13日にケープタウン、19日及び20日にダーバン、26日及び27日にヨハネスブルグ、31日にソウェトで、それぞれ「雲の向こう、約束の場所」、「阪急電車 片道15分の奇跡」、「のぼうの城」、「スウィングガールズ」、「わんこ、ロックの島」の5作品が上映された。

本映画祭は既に当地で定着しており、毎年のように本映画祭を訪れるファンも存在する。また、

初めて日本映画を観るといふ南アフリカ人も多く来場し、日本文化関心層の拡大にも貢献している。

5. 警備・治安

●首都プレトリアで、警察により外交官が撃たれる。

19日午前、首都プレトリアの高級住宅街において、強盗に間違えられたジンバブエの外交官が、国家警察の私服警察官により射殺される事件が発生した。友人とテニスの約束をしていた被害者は、友人宅前においてゲートが開くのを待っていたところ、機関銃を所持した私服の警察官を目撃したため、この警察官を強盗だと勘違いした被害者は、自家用車にて逃走を試みるも、警察官により射殺された。この警察官も、被害者を強盗犯人だと勘違いし、逃走した外交官を射殺したとのことであるが、犯人と間違える根拠があまりにも希薄であったため、事件の背景を捜査している。

●邦人の強盗被害が続く

6日、午前10時頃、車に乗っていた邦人5人が、宿泊先のサントンからヨハネスブルグ空港へ戻る途中のハイウェイ上で、ルーフ上に青色回転灯を載せた警察車両に酷似した乗用車に乗っていた3人組の黒人に停車を求められた。求めに応じて、車を止めると、黒人らは警察バッジのような物を示しながら、所持品を提示するように強要し、被害者らが求めに応じたところ、現金、スマートフォン等を強奪して逃走した。

8日、午後7時頃、邦人の男性が、ヨハネスブルグ中心部のパークステーションの長距離バス乗り場付近を歩いていたところ、4人組の黒人らに背後から首を絞められて羽交い締めになされ、所持していた肩掛け鞆(現金、クレジットカード、旅券等在中)を引きちぎられ強奪された。

4月以降、邦人に対する強盗事件は、把握されているだけでも7件発生している。